

三四五九番

稲^{いね}搗^つけば かかる^あ我が手^てを 今夜^{こよひ}もか 殿^{との}の若^{わく}子^こ
が 取^とりて嘆^{なげ}かむ

三四六〇番

誰^{たれ}そこの 屋^やの戸^と押^おそぶる 新^{にふ}嘗^{なみ}に 我^わが背^せを遣^や
りて 齋^{いは}ふこの戸^とを

三四六一番

あぜといへか さ寝^ねに逢^あはなくに ま日^ひ暮^くれて
夕^{よひ}なは来^こなに 明^あけぬしだ来^くる

三四六二番

あしひきの 山^{やま}沢^{さは}人の^{ひと} 人^{ひと}さはに まなと言^いふ児^こ
が あやにかなしさ